2018 2.26 vol.833

JA全農ウィークリー WEEKLY

2面

4月の世界選手権で優勝目指す

石川佳純選手が全農を訪問、激励会開催

3面

フレッシュミズと共同開発商品「エーコープほめられ酢」お披露目

JA全国女性大会で共同開発した「ほめられ酢」をお披露目をするフレッシュミズメンバー（3面）

台湾で「総称　山形牛」のトップセールスを行った左から吉村美栄子山形県知事、阿部茂昭運営員会副会長、後藤和雄県本部長（6面）

卓球女子日本代表の石川佳純選手を激励する全農グループ役職員（2面）

2 ニュース＆トピックス（広報部、耕種総合対策部）
3 ニュース＆トピックス（生活リテール部、秋田県本部）
4 JAズームイン（JA広島中央）
5 県本部だより（千葉県本部）
6 ニュース＆トピックス（山形県本部）
7 畜産情勢（畜産総合対策部）
8 コミュニケーション（営農・技術センター、JAタウン）

商品の詳細は3面に掲載

News!

「4月の世界選手権で世界一を目指します」

石川佳純選手が全農を訪問、激励会を開催

広報部

全農所属の卓球女子日本代表の石川佳純選手が2月7日、東京・大手町の全農を訪れ、全農グループ役職員に昨シーズンの報告をしました。

全農の長澤豊会長は果物と東北のお米を贈り、「これからも活躍を期待しています」と激励しました。

その後、激励会の会場に集まった全農グループ役職員に対し、石川選手は「昨シーズンは後半にかけて良いプレーができるようになり、中国選手にも勝てるようになった。1月の全日本選手権は残念な結果だったが、4月の世界選手権では世界一を目指して頑張ります」と述べたほか、「海外で食べるお米は特別においしい。頑張らないと、という思いになる」と話しました。

2月22日からロンドンで開幕するチームワールドカップに出場する石川選手へ、全農の山﨑周二専務は「石川選手の活躍は子どもたちの夢であり憧れ。全農職員も全国から一生懸命応援します。」と激励しました。

全農は、「ニッポン人の活躍を『ニッポンの食』で支える。」のスローガンのもと、海外で活躍するアスリートを今後も「ニッポンの食」を通じてサポートしていきます。

全農を訪れトークセッションで決意を語る石川選手

東北のお米を贈り石川選手を激励する長澤会長

News!

“事業承継”への更なる取り組みへ向け

本会ＴＡＣ職員が農業界で初の「事業承継士」を取得

耕種総合対策部

全農では農業界の大きな課題となっている事業承継を進めるため、『事業承継ブック～親子間の話し合いのきっかけに～』を昨年1月に発行し、ＴＡＣ担当による事業承継支援の取り組みを推進しています。同年12月にはＴＡＣ推進課職員が「事業承継士」認定を受け、さらなる取り組み拡大を図っています。

全農は、事業承継ブックの発行を契機に、全国のＪＡ職員（ＴＡＣや担い手金融リーダーなど）や生産者（ＪＡ青年部や４Ｈクラブなど）を対象とした研修会を増やすなど、事業承継の取り組みを拡大しています。実際の担い手訪問の中でも、具体的な事業承継の相談が急増しており、事業承継への共感は広がっています。

そんな中、伊東氏は事業承継に関する専門知識や専門家などとのネットワークづくりの必要性を感じ、事業承継士の資格取得を目指しました。

事業承継士は一般社団法人事業承継協会が認定するもので、30時間の事業承継士資格講座を受講し、事業承継士認定試験に合格、同協会に入会することで与えられます。

取得した伊東氏は「自らも実家で農業をやりながら、事業承継の課題に直面しています。個々の家の問題でもありますが、本会だけでなく農業法人協会や全青協、４Ｈクラブなどと連携し、農業界全体の取り組み、社会運動として展開できればと思っています」と語り、事業承継への更なる取り組みが期待されます。

「こせがれ交流会」で事業承継をテーマに講演する伊東氏

News!

フレッシュミズと共同開発「エーコープほめられ酢」完成！

第63回ＪＡ全国女性大会で盛大にお披露目

生活リテール部

生活リテール部はエーコープマーク品開発の新たな試みとして、ＪＡ女性組織の若手・フレッシュミズ（おおむね45歳以下で構成）の都道府県段階の代表者有志との共同開発を進めてきました。このほど「エーコープほめられ酢」が完成し、1月24～25日に開かれた第63回ＪＡ全国女性大会で盛大にお披露目しました。

「エーコープほめられ酢」は、さわやかな風味で、和洋中どんな料理にも合う調味酢です。「かけるだけ」「つけるだけ」「まぜるだけ」で酢の物、ピクルス、マリネと時短料理ができます。

ネーミングは、この商品を使った料理を家族皆で楽しく囲む場面を想定し、「料理もわたしもほめられたい」という思いで名付けました。ＪＡ全国女性大会で試食した皆さまから「簡単、便利でネーミングのほめられ酢はぴったり」、「酢特有の酸っぱさがなく、子どもから大人まで食べられる」などの声が聞かれ大変好評でした。

今回の共同開発企画では、全農開発担当が考え付かないようなフレッシュミズの皆さんならではの発想やアイディアがたくさん飛び出し、今後のエーコープマーク品の商品開発やマーケティングに大いに参考となりました。

開発した商品は、4月1日から女性組織共同購入や農産物直売所、Ａコープ店舗などで販売します。

「ほめられ酢」の試食を勧めるフレッシュミズメンバー

食卓に置ける、冷蔵庫に入りやすい手軽サイズを意識した容器の「ほめられ酢」

News!

秋田県複合型農業パワーアップ大会開催

米政策見直しに対応、稲作に園芸と畜産の組み合わせ拡大へ

秋田県本部

秋田県本部はＪＡ秋田中央会などとともに1月24日、秋田市で「秋田県複合型農業パワーアップ大会」を開きました。

大会は、平成30年産以降の米政策見直しに伴う産地間競争の激化が想定される中、稲作に園芸や畜産を組み合わせた複合型生産構造の拡大に向けて開催。県行政や生産者、ＪＡ関係者など約260人が参加しました。

大会ではＪＡ秋田中央会の船木耕太郎会長のあいさつ、園芸畜産情勢の報告の後、県内の優良事例として、ＪＡあきた白神から平成27年から稼働し着実に成果を上げている「白神ねぎ」の園芸メガ団地※1について、ＪＡ秋田しんせいからは平成29年10月に開牧した和牛周年預託牧場※2について取り組み事例が紹介されました。また、全農の立石幸一参事は「ＧＡＰの取り組みと生産振興」と題し講演しました。

大会の最後には、複合型農業を強力に進めていくとした大会宣言を採択し、ガンバロー三唱を行い、決意を新たにしました。

※1 1カ所に団地化した農地で年間1億円以上の販売を行うもの。整備には秋田県の「園芸メガ団地育成事業」を活用した。

※2 妊娠が確認された牛を分娩（ぶんべん）30～45日前まで期間預託が可能な施設。増頭や省力化を後押しする。

秋田県複合型農業パワーアップ大会であいさつするＪＡ秋田中央会の船木耕太郎会長

JAズームイン

ドローン貸し出しや農地相談で農業振興へ

JA広島中央（広島県）

概要	平成29年3月31日現在
正組合員数	1万8173人
准組合員数	1万3982人
職員数	378人
販売品取扱高	27億円
購買品取扱高	21億7千万円
貯金残高	1708億9千万円
長期共済保有高	5396億4千万円
主な農産物	米、アスパラガス、ナス、ピーマン、白ネギ、西条柿

JA広島中央は広島県の中央に位置し、県下でも数少ない人口が増加している地域で、稲作が中心です。管内の東広島市西条は酒都と称され、酒造好適米の「山田錦」も栽培しています。

小規模の農地集積し防除作業委託を計画

JAは、地域農業の振興を図るために、農薬散布用ドローン（小型無人飛行機）を導入し、平成29年4月から、集落営農法人や担い手に貸し出しています。JAが貸し出して共同利用することで担い手の負担を減らし、経営の安定化につなげていきます。

平成29年度は、6法人と担い手2人が契約。ドローンを使った防除の合計面積は214㌶で、水稲と麦の防除に使用し、最盛期には、1日平均7㌶を防除しました。JAが利用団体に実施したアンケートでは、防除効果も十分で、省力化にも担い手の労力が軽減できると高い評価を得ました。また、コストについては、数字で示した4団体を集計すると平均4割減少できました。

JAは、産業用マルチローターオペレーター技能認定の受講を斡旋する他、飛行に必要な申請手続きも支援しています。平成30年度は小規模な農地をJAが取りまとめ、法人のオペレーターに防除作業を委託する事業を始める計画です。

JAが貸し出しているドローンのテスト飛行をする法人のオペレータ

酵素の試験散布でJAのドローンに粒剤を入れるJA職員

本・支所連携し相談・支援 相続、農地利用などに対応

JAは全11支店で、農地の相続や農業の事業継承の相談、支援を行っています。相続後も農地が維持されることで耕作放棄地の解消につなげます。相続時には従来の貯金、共済、出資、購買などの手続きに加え、農業継続・農地利用についても聞き取り、「相続相談管理表」で管理しています。

相続の相談窓口である支店と本店の相続相談センターが連携し、相続人の要望に合わせて各部署が対応します。具体的には、農地の転用・売却を希望する場合などは、不動産を扱う農住開発課が対応し、農業機械については、農機センターが受け持ちます。農作業を一部委託したい場合は、農業者受託マッチング事業を行っている営農支援センターが受託者を紹介します。農地を貸す場合は、各グリーンセンターが近隣の担い手に耕作依頼などを行うか、営農支援センターが農地中間管理機構や農業委員会と連携して対応します。

農地や農業についての相続相談に応じるJA職員

対面販売で好みの肉を選ぶ消費者

大勢の来店者でにぎわう「全農のお肉工房」

県本部だより

千葉県産畜産物の魅力 特長を対面販売でPR

JA直売所に「全農のお肉工房」開店

千葉県本部は平成29年8月、君津市のJAきみつ農産物直売所「味楽囲（みらい）さだもと店」に千葉県本部初の精肉店舗「全農のお肉工房さだもと店」をオープンしました。

「味楽囲さだもと店」はJA農産物直売所で県内有数の売り上げを誇り、新鮮な農産物を豊富に取りそろえています。

「全農のお肉工房」は、千葉県産畜産物の知名度向上やブランド力の強化、情報発信拠点としての活用、JA直売所の活性化、JAグループへの理解醸成に寄与することを目的に設置しました。

売り場には、千葉県産の銘柄牛である「みやざわ和牛」や「千葉若潮牛」、銘柄豚の「房総ポーク」や「東の匠SPF豚」を中心に、国産にこだわった商品を取り扱っています。

対面販売を導入し量り売りにも対応

同店は対面販売による量り売りを行っています。対面販売で消費者の必要な量や予算に応じた対応、料理に合ったお肉の部位の提案など好みに応じた販売をしています。このことを通じ、千葉県産畜産物の特長や生産者の思いを消費者へ直接説明するとともに、モニター画面を活用し銘柄肉や生産者、生産現場を紹介するなどのPRを行っています。

定期的な試食販売や、「味楽囲さだもと店」のイベントに合せた販売会を開くなど、季節感のある売り場づくりに努め、直売所のさらなる活性化を図っています。

消費者の声をつなぎ生産者の意欲向上に

オープンから半年が経過し、農産物直売所に精肉店ができたことで消費者からは、「買い物が便利になった」「お肉がおいしい」との評価の声もあり、口コミによる利用者も増えています。

このようなお肉に対する消費者の評価や感想を生産者にフィードバックすることで、生産意欲の向上に貢献しています。

店舗概要

店舗名	全農のお肉工房さだもと店
住所	千葉県君津市貞元133-1（JAきみつ農産物直売所「味楽囲さだもと店」内）
営業時間	9:30～18:00
定休日	毎月第2水曜日（8月は除く）および年末年始

香港・台湾で「総称 山形牛」トップセールス

県産農畜産物の輸出拡大に手応え

山形県本部は、県産農畜産物の輸出拡大に向け積極的に取り組んでいます。昨年11月と今年1月は香港、台湾で、山形県のブランド牛「総称 山形牛」のトップセールスを行いました。【山形県本部】

香港

香港で招待者に県産農畜産物を説明する県本部職員

台湾

台湾のトップセールスで来場者に試食を勧める左から吉村山形県知事、阿部運営委員会副会長、後藤県本部長

香港で一カ月のフェア 特別メニューも振る舞う

香港では昨年11月1日から1カ月間、JA全農ミートフーズの直営店「和牛焼肉純」で、「山形フェア」と名付けた県産農畜産物フェアを実施しました。初日に阿部茂昭運営委員会副会長が尖沙咀(チム・サー・ツイ)店を訪れ、招待した香港の有名外食レストランシェフやバイヤー、メディア関係者ら約30人に県産農畜産物をPRしました。

山形牛をはじめ、山形県産豚や「つや姫」、「ラ・フランス」などをふんだんに使った特別メニューを振る舞い、招待された関係者は山形牛のとろけるような舌ざわりや、「ラ・フランス」の芳醇な香りに魅了されていました。

山形牛は既に一部高級スーパーなどで販売されており、同店舗を中心に今後も定期的なフェアを実施し、外食産業をはじめさまざまな販路への推進を図っていきます。

台湾の輸入解禁受け 県知事も参加しPR

台湾では、昨年9月の日本産牛肉輸入解禁を受け、台北市「微風広場」と高雄市「大立百貨店」の2店舗で1月18～21日、「山形フェア」を実施しました。山形牛をはじめ「シャインマスカット」や県産農畜産物の加工品などを取りそろえ、フェア期間中の20日と21日に、吉村美栄子山形県知事、阿部副会長、後藤和雄県本部長によるトップセールスも行われ、フェアをより一層盛り上げることができました。

阿部副会長は「日本国内でもトップレベルのブランド牛の味を確かめてもらい、ぜひ山形のファンになっていただきたい」とPR。山形牛サーロインのブロック肉が登場すると、その美しさに来場者は見入っていました。

PRスピーチの後には、山形牛と新品種の県産米「雪若丸」を使ったミニ牛丼、ミニステーキ丼の振る舞いや庄内柿のプレゼントが行われ、春節前の需要期でにぎわう店内が活気にあふれ、日本の農畜産物に対する関心の高さがうかがえました。

総称 山形牛

山形肉牛協会は、次の三つの基準を全て満たしたものを「山形牛」として認定しています。

①山形県内において、最も長く肥育・育成された未経産および去勢の黒毛和種。

②公益社団法人日本食肉格付協会が定める肉質4等級以上のもの。ただし、①の条件を満たし、肉質が3等級についても同様に取り扱う。

③山形県および各行政機関で実施する放射性物質検査において、放射性物質が「不検出」であること。

畜産情勢

（畜産総合対策部）

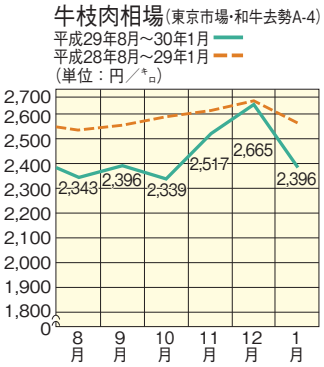
牛肉　弱もちあい

1月の成牛と畜頭数は速報値で約7万6千頭(前年比98.0%)と減少しています。

1月の東京市場枝肉卸売価格は速報値で、和牛去勢A5が2769円(前年比96.4%)、和牛去勢A4が2396円(同93.2%)、和牛去勢A3が2099円(同88.8%)、交雑牛B3が1411円(同85.2%)でした。

農畜産業振興機構の2月の国内出荷予測頭数を品種別にみると、和牛が約3万1千頭(前年比98.9%)、交雑牛が約1万8千頭(同103.2%)、乳牛(雌含む)が約2万6千頭(同94.5%)であり、全体では約7万6千頭(同98.3%)と見込んでいます。

12月に高騰した枝肉相場は、1月に入り大きく下落する展開となりました。年末年始からの消費疲れや、野菜の高騰で鍋物需要が低下する中、引き続き荷動きが停滞しており、2月は弱もちあいの相場を予測します。

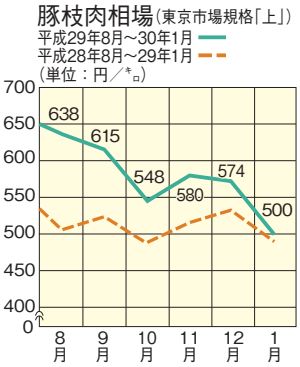


豚肉　春先へ向けて緩やかに上昇

1月の全国と畜頭数は速報値で、約132万頭、前年同比94.4%です。

1月の東京食肉市場枝肉相場は速報値で500円/kg(前年比101.6%、前月比87.1%)と、前月から大きく値を下げました。出荷頭数は、全国的に強い寒気が流入した影響で、増体の伸びが悪く、速報値ベースで前年同月を大きく下回る約132万頭(前年比94.4%)となりました。

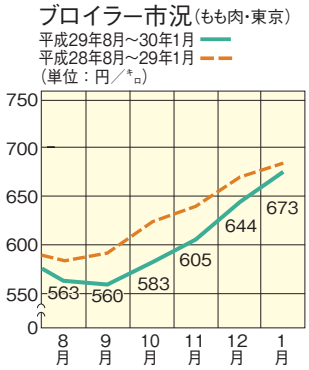
農畜産業振興機構発表の2月出荷予測頭数は、約127万頭(前年比97.4%)です。厳しい寒さを背景に増体が伸び悩み、一部地域では疾病の影響もあって、全体的には少なめの出荷が見込まれます。量販店などでは、市況が軟調に転じたこともあり国産豚肉を販促する動きもみられますが、輸入チルドポーク急増による余剰感もあり、市況の大幅な上昇は期待できず、当面は相場は一進一退の動きをみせながら春先へ向けて緩やかに上昇すると予測します。



鶏肉　もも650円、むね300円

1月の相場は、もも肉673円/kg（前月比29円上げ）・むね肉312円/kg（前月比6円下げ）で、正肉合計で985円/kgと前月比23円上げとなりました。もも肉は、1月初め682円、月末671円と前年同月には及ばなかったものの例年なら下げに動くところ寒波の到来などから鍋物需給が好調だったこともあり小幅な下げにとどまりした。むね肉は前月比若干の下げとなっていますが、旺盛な需要に支えられ前年比59円高と相変わらず高い水準が継続しています。

2月も平均気温が平年より低くなるとの予測のため鍋物需要が続く期待から大きな下げはないものと思われ、もも肉は月平均で650円、むね肉についても加工筋等などからの引き合いが引き続き強く、月平均で300円と予測します。

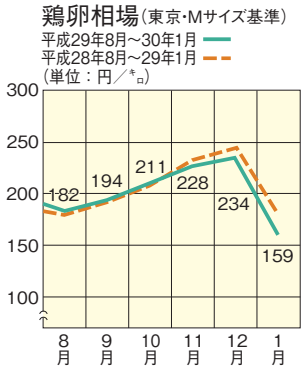


鶏卵　家庭用中心に荷動き回復

1月の東京相場の月間平均は、中旬以降、上伸の展開が続き、Mサイズ基準値159円(前年比△20円)となりました。

初市相場が前年より低い水準でスタートしたこともあり、加工筋を中心としたスポット集荷などで滞貨玉は徐々に解消に向かったものの、年末年始需要の反動もあり、上旬は業務筋を中心に荷動きが鈍い状況が続きました。また、加工筋の荷動きも長くは続かず、年始には一定の集荷を終えて、積極的なスポット購入は短期間で終了しました。

今後については、2月は多くの量販店が決算期を迎え、積極的に特売を実施することが期待されるため、テーブルエッグを中心に荷動きが回復し、相場水準は上昇すると考えられます。



全農 ZEN-NOH COUNTDOWN JAPAN
JA全農提供FMラジオ番組（TOKYO FM/JFN38局）
毎週土曜日13:00～13:55
東京・半蔵門のアースギャラリースタジオより生放送!

JAから広げる

「うぃずOneを活用した野菜づくり食農教育」

子どもたちが野菜作りや収穫の楽しさを体験！

子どもたちに誘引の仕方を説明。「上手にできるかな？」（JA佐野）

小学校の花壇でも楽しくトマトが出来る（JA北大阪）

営農・技術センターは平成26年度から、「うぃずOneを活用した野菜づくり食農教育」を全国展開しています。この取り組みは、「うぃずOne」の栽培様式を用いて開発した食農教育資材です。JAで食農教育を担当されている皆さまへ「うぃずOneを活用した野菜作り食農教育」をご紹介します。【営農・技術センター】

平成29年度は、JA佐野・JA足利・JA横浜・JA北大阪の4JAで導入しています。「うぃずOne」の栽培槽「プラスボックス」を使って、土の入れ方、定植方法・養液栽培など「うぃずOne」の栽培様式を参考にして構成し、食農教育資材として考案されたものです。必要機材を用意し、設置場所にプラスボックスを置き、マニュアルに沿って作業をするだけで、夏から冬にかけてトマト・茎ブロッコリー栽培が連続体験できます。出前授業がすぐに出来るシナリオ付きのパワーポイントも用意しており、定植時や収穫時に合わせた学校での出前授業によるイベントも可能です。このような学校で行う食農教育資材として活用するだけでなく、JA佐野で実施しているアグリキッズスクールの参加者に向けた、家庭で野菜栽培をチャレンジするキットとして活用する事も可能です。

営農・技術センターは、取り組み要望のあるJAに対し、県域の営農担当部署を通じて「うぃずOneを活用した野菜づくり食農教育」のノウハウを提供しています。ご興味のある方は、耕種総合対策部営農・技術センター管理・講習課（担当：中村・大武）までご連絡ください。

電話：0463-22-1023
メール：zz_zk_kanri@zennoh.or.jp

「食と農」の情報を広く消費者へ！
スマホアプリを公開中
JA全農のイベントや新商品に関する最新情報がさらに充実！
作動環境：スマートフォン iOS8以上　Android4.3以上

JAタウン ショップ紹介

JAタウン | 検索 クリック

越中自慢（JA全農とやま）

チューリップ切り花を専門に出荷しているのは、「砺波（となみ）切花研究会」です。生産量は多くありませんが、“八重咲”や“フリンジ咲”など珍しい品種を50品種以上栽培しています。人気の高い変わり咲き品種の栽培には、温度管理や土づくりが重要です。砺波切花研究会では、球根栽培農家としての豊富な経験に裏打ちされた技術により、多品種を栽培しています。さまざまな色や形、長さの花を一つにミックスできるのは、産地直送ならではの魅力です。卒業や入学のお祝いとして、また、ホワイトデーのプレゼントとしてもおススメです。

なお、ご紹介した商品は、3/9（金）まで、FAXでもご注文を承ります（ご自宅宛代金引換のみ）。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03－5218－2517までご送信ください。
商品代金のほか、お届け先により送料が必要となります。

JA全農のインターネットショッピングモール
▶ご注文は http://www.ja-town.com
▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。

発行／全国農業協同組合連合会　2018年（平成30年）2月26日発行（毎週月曜日発行）
第3229号　編集・発行人／広報部　落合成年
〒100－6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号JAビル　TEL03（6271）8055

私たち全農グループは、
生産者と消費者を　安心で結ぶ懸け橋
になります。